

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3071000453
法人名	医療法人 敬英会
事業所名	グループホーム 幸楽の里
訪問調査日	平成21年 4月 10日
評価確定日	平成21年 5月 12日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人 敬英会		
事業所名	グループホーム 幸楽の里		
所在地	和歌山県橋本市隅田町山内1919 (電 話) 0736 - 38 - 1165		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成 21年 4月 10日	評価確定日	平成21年5月12日

【情報提供票より】(平成21年 3月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21人	常勤 7人, 非常勤 14 人, 常勤換算 18、2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 200 円 夕食 300 円 または1日当たり 900 円	昼食 300 円 おやつ 100 円	

(4) 利用者の概要(平成21年 3月 18日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	65 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおはぎ内科 小柳歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間部を開発した丘陵地の入り小口に介護老人保健施設があり、奥まったところにデイサービスとグループホームが隣り合わせとなっている民家風の造りの建物がある。地元の入居者が多く、地域の様々な行事に参加したり法人の催しに地域住民や家族を招待するなど、開設時から地域との交流に取り組んでいて、地域の拠点としての役割を担っている。山ふところに囲まれた環境のなか、職員に見守られて入居者が日々その人らしく過ごしており、桜の花が舞い散る下で入居者数人とスタッフが玄関の草引きをしている様子は、家庭の1コマを見ているようである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型理念の具体的提示として“地域との交流”を盛り込み、路沿いに標識を立て、分かりやすくした。又、職員の離職を防ぐ手だてとして副主任がホーム内のパイプ役として多に力を発揮している。更に共有空間の工夫等改善できる所から積極的に取り組み、質の向上に繋げている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が項目を分担して自己評価を行い、それを管理者がまとめるという協同作業で行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 推進会議の定期的な開催をすることで、事業所のスキルアップを目指すよう、少しずつ会議の回数を増やす様に心がけることが望まれるが、今のところ年に1回の開催にとどまっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に意見箱を設置しているがあまり活用できていない。支払は毎月家族が現金を持参することになっているので、その際に家族から意見を聞きサービスの改善に繋げている。家族会はあるが現在は活動しておらず、家族の代表が運営推進会議に出席することはあるが、意見を表せる機会となる場は他に設けられていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 山間部のため日常の行き来はあまりないが、市や地区からの見学者は多い。又地域の運動会や幼稚園・老人会のイベントに参加し、法人の夏祭りやクリスマス会などの年中行事には家族や地区の人たちを招き、模擬店や柿の葉寿司でもてなすなど、地域との交流を積極的に行い連携を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	表玄関にグループホームの理念を、1階の受付には法人全体の理念を掲示している。グループホームの理念には安心できる生活への支援や残存能力の活用、地域との交流等を盛り込んでいる。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の開始時に話し合っているが、理念の内容が盛りだくさんで全体職員が共有できているとは言い難い。またグループホーム独自の理念が周知されていない。	○	学習会等で法人とグループホームそれぞれの理念を理解し、意識付けできるよう繰り返し確認し合い、職員全体が日々のサービスに活用できる取り組みを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者には地元の人が多く、地域の年中行事に参加すると共に法人の催しやグループホームの行事に地域の人達を招いて共に楽しむなどして、開設以来地域との交流を積極的に進めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の取り組みは全職員で行い、項目を再確認できた。標識の設置、理念の再考など改善できることから取り組み、サービスの向上に繋げている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者、家族会の代表、区長などがメンバーとして参加しているが、今のところ年に1回の開催に留まっている。	○	地域の色々な立場のメンバーが意見を出し合い、地域の拠点としての事業所の運営に反映できるよう、推進会議の定期的な開催を目指すことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが主催する地域ケア会議に月1回参加し、様々な情報を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「幸楽新聞 グループホームだより」を家族に送付し、行事やイベント、幸楽での生活の様子や新人職員も写真入りで紹介している。また、殆どの家族が支払いのため事業所を訪問するので、その都度報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に意見を聞くようにしてサービスの向上に反映させている。慣れてくると少しずつ要望も出るので、顔馴染みの関係作りに努めている。家族会は休止中であるが、代表が運営推進会議に出席している。玄関に設置された意見箱は活用できていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を防ぐために副主任のポストを置き、副主任が管理者とスタッフのパイプ役となり意思の疎通ができやすくなったその結果、職員不足が解消され、十分な人員が確保できている。異動の場合は同じ敷地内なので、職員が訪れたりしてダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人が行う勉強会に各ユニット管理者と職員2名が参加し、研修ファイルを作成して皆で共有しており、外部研修の情報提供は行っているが積極的な支援体制とはなっていない。	○	経験の浅い職員も多いので、同法人、フロアーの研修だけでなく、認知症ケアの専門的な技術、重度化やターミナルの対応など、研修の機会を増やして、全職員のスキルアップを図ることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修には仕事の一環として参加し、相互研修も行っている。他の事業所を見ることが、当事業所を更に良くしようとする意識の変化が見られ、相互研修の成果が現れている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人の老健施設の入所者や通所の利用者が入居される場合は顔馴染みの職員もいて打ち解けやすい。昼食やおやつを食べにきてもらったりしながら徐々に馴染んで、本人が納得した生活ができるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度、盛り付け、配膳、片付けを率先して行ってくれる入居者もあり、洗濯物を干す・たたむなど自分のできることに支援をしている。本人同士が声を掛け合い食事している様子がみられ、ほほえましい雰囲気である。また家庭菜園をしており、植え付け、草取り、収穫など共に行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外に出たい人には、そっと寄り添い散歩したり、仲のよい人同士がそばに居るように配慮するなど、個人の希望の把握に努めながら日常の支援を行っている。アセスメントのための「センター方式」も使いやすく改善しながら、少しずつ活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の担当を決め毎日のケアカンファレンスで、情報や家族からの聞き取りをもとに、関係者で話し合いながら計画を作成している。生活援助計画は昼夜ごとに分かりやすく作成され、評価もきちんとされている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月毎に全員見直しを行い、具体的な変化内容を表わすように努めている。目標を1つずつ週の重点項目として日誌に書き込み、達成度を掴む取り組みもなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の他サービスの利用者や職員が訪問し交流できるように積極的に支援している。また老健との医療連携で、1日24時間看護師との連携が取れる体制となっている。母体が歯科医のため、口腔ケアには十分取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の入居者が多く、元々のかかりつけ医の受診・往診・健康診断が可能な支援体制となっていて、家族に代わって通院送迎をするときもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と話し合っている。法人の老健施設との連携し、現在までの看取り経験を活かして、今後予想される重度化への対応への支援体制を全職員で検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は鍵のかかる場所に保管されている。顔写真入りの「幸楽新聞」を地域に配布する時は家族の了解を得ている。また一人になりたいときや気の合った人とくつろげるようなプライバシーに配慮した共有スペースが確保できており、入居者を尊重した声かけもできている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は控えめに寄り添い、ゆったりとしたスペースで入居者と一緒に過ごしている。夜の入浴、畑仕事など、その人がしたいことを優先して支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買出しから後片付けまで入居者と共に行い、皆でテーブルを囲んでおいしく頂けるように支援している。刻み食が必要な入居者にも、最初から細かく刻んでしまわないで、目でも楽しみながら食事できるように配慮している。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	比較的に大きめの浴室で、二人対応での入浴もできるスペースがある。基本的には2日に1回午後からの入浴になっているが、毎日の利用や夜間入浴も実施している。また一人での入浴の希望もあり、ドアの外での見守りも行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園作りやアイロン掛け、僧侶を招いての身内の命日の供養など、生活歴を活かした取り組みをしている。また外食に行ったり、ドライブの途中でお茶を飲んだりとかける機会を多く持つよう配慮している。昨秋は高野山へ出かけ、楽しい思い出となった。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1度買い物に行き、自分のほしいものや毎日の食材を購入している。また天気の良い日や季節の変わり目など山々の変化を見に散歩したりドライブにもよく出かけ、閉じこもらないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、ドアを開けると涼やかな鈴の音になるようにしている。ベランダへも自由に出入り、山の季節の移ろいを楽しめる。隣にデイサービスや老健施設があり、法人全体で見守りができる体制となっている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や火災訓練は5月、10月に年間事業として計画はされているが、実施はされていない。	○	近隣には民家も少ないが、立地条件から、山崩れ、山火事、救急車の到着時間等、課題が多く予想される。早急に法人や地域の協力を得ながら訓練等がなされるよう期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の水分、食事摂取量は記録にとって管理している。また毎日のメニューが写真に取られ、栄養面や献立の偏りを防ぐ工夫がなされている。栄養管理の必要な方には、体調の変化に気をつけている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下の窓から山々が見え、季節の移り変わりが感じられる。ホーム内は木調のゆったりしたスペースで、椅子やソファを適切に配置し、くつろげる空間となっている。掃除も行き届き、庭の花がさりげなく活かされて居心地よい工夫がされている。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の入り口には手書きの立派な気の表札がかかっている。自宅で使われていた、ホームコタツや箆笥、鏡台や仏壇など、馴染みのものが持ち込めるように配慮されている。ホームで家族、孫と一緒に取った写真が大きく引き伸ばして飾られており、その人らしさの居室づくりに取り組んでいる。		